

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1176501839		
法人名	株式会社カネットふれあい		
事業所名	ふれあい多居夢大宮		
所在地	埼玉県さいたま市西区植田谷本461-3		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	平成22年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成22年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者とスタッフが家族のように親身に関わることで、お互いに強い信頼感が生まれ、より良いケア、家族的なケアが提供出来ていると思います。またスタッフも認知症という疾患をお持ちの入居者に対して非常に前向きな姿勢で向かい合うので、残された能力を発揮しやすく、入居者も安心した生活が継続出来ています。建物の設備に関しても、大きな台所で入居者とスタッフが協働しやすく、和室というくつろぎの空間もあり、日々の生活を送るのには、申し分のない環境です。建物周囲の環境にも恵まれており、晴れた日には、ホームのリビングから富士山が望めますし、ホームから歩いて3分の自治会館では、季節ごとの行事が催され、度々と招待されております。今後も、ひとつの家族としてのグループホームケアを継続していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・職員の業務に対する前向きな取り組み姿勢とコミュニケーションが良く図られ、利用者本位のケアに取り組まれている。利用者に対する家族同様の温かな気持ちと細かな気づかいから、個別ケアを職員同士で活発に意見交換し対応されている。その良さは利用者との関わりにも反映され、誕生会やフワアアレンジなど催事に1・2階の利用者が相互交流されている。また、利用者の得意料理をメニューに組み込むなど、生活に変化と張りがあるよう工夫され、明るい雰囲気がつくられている。
 ・職員研修システムが確立し、サービスの質の向上に活かされている。新人研修や中堅者研修など職員の各階層ごとの研修システムが整備され、職員のスキルアップのための全社的な取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員が理念について考え、意見を出し合い、独自の理念を作り上げ、実践に向けて取り組んでいる。	事業所理念の見直しの機会を設け、全職員で意見や思いを出し合い、利用者との関わりを大事に利用者本位のケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。また、近隣の保育園の運動会に招待して頂いたり、近隣に住む方にボランティアとしてお手伝い頂いている。	自治会の福祉担当者と協力し、いきいきサロン・夏祭り・餅つきなど地域の行事に積極的に参加している。また、七夕・ひな祭りには近隣の保育園の園児を招待するなど、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民代表者が出席する運営推進会議でホームにおける生活の状況、支援の方法等を報告し認知症の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催し、事業所の活動状況を報告している。その中で外部評価の結果、今後の目標や課題を報告している。また、地域の方の参加で近隣の行事に参加する機会が増えている。	定期的開催され、活発な意見交換の場となっている。その提案から今後、自治会総会で事業所説明をする機会が予定されている。又、非常災害対策についても話し合いがもたれ、地域連携体制の整備や協力員の確保に向けた取り組みが行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者に対して、市の担当者が定期的に面会され、連携を取り合っている。	業務の中での疑問など、市の担当者に相談する仕組みができており、良好な協力関係が築かれている。また、市の職員が来訪する機会があり、その際は利用者の状況報告などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を設け、委員だけでなく、スタッフ全員が日ごろから身体拘束をしないケアを行っている。玄関は夜間のみ防犯のため施錠しているが、それ以外は開放されている。	身体拘束廃止委員を設け、定期的に研修し、職員に身体拘束をしないケアの実践を周知している。利用者一人ひとりに合わせた、声かけ・見守りを行い身体拘束をしないよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、フロア会議を行い、全入居者の処遇についてスタッフ間で話し合い、対応を統一している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人がついている入居者が数人、入居していたため、スタッフもある程度の理解をしていたが、現在は学ぶ機会がなく、理解が薄れてる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、本社担当者が時間をかけて十分に説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、要望等をお聞き直ぐに伝達、解決している(玄関に要望書等を設置)。入居者からの訴え(定期的に満足度アンケートを実施)も直ぐに対応している。	家族の面会時には、必ず意見や要望を聴取し運営に反映されている。また、利用者アンケートも実施され、希望の外出先へ出かけたり、出張美容でヘアカーをするなど対応されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、フロア会議を行い、各スタッフが意見の発表を行っている。また、社長面接の機会があり、現場の声を伝えている。	定期的な会議のほか、日々の業務の中で職員の意見を聴取されている。活発な意見等、言いやすい職場環境で運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長面接として、社長が各事業所を回り、スタッフの意見・要望を聞き、また、入居者ともに関わりを持ち、事業所内の状況把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内研修が行われ、順次、参加している。また、資格取得のため、対象者が試験等の前には、連休を与える等の配慮をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協議会に所属しているため、交流の機会はあるが、現在はあまり参加出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査で現状の細かい把握に努め、不安等がある場合には、入居前に数時間ホームで過ごしていただいたりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に少しでもスタッフとお話頂き、不安や要望を伝えやすい関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや実態調査の際に置かれている状況を把握している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々から学ぶことが、非常に多く、生活の知恵やアドバイス等、日々いただいている。単なるスタッフと入居者の関係ではなく、家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への相談や報告は、細かいことでも行い、一緒に考え、最善の方法を導き出せるように協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者やご家族、友人と手紙のやり取りをされている方がおり、スタッフは住所等の代筆や郵便物の包装を手伝ったりと、関係継続が途絶えないように支援している。	利用者の要望に応じて、家族・友人への手紙や贈り物等の支援を日常的に行ない、馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。また、以前通っていた喫茶店を利用するなど、馴染みの場を利用する支援も行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性等を考慮して、その場の状況に合わせてスタッフが介入したりして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方のご家族とスタッフで故人の思い出を語る機会を設け、その後も良好な関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	うまく気持ちが伝えられない方でも、表情や言動等から読み取るように努めている。難しい場合には、ご家族に相談したり、スタッフ間で話し合い、意向に沿うよう検討している。	夜間や入浴時に、一対一でゆっくりと話を聞き、思いや意向を把握されている。また、困難な方には仕草や表情から汲み取られている。家族からの情報・生活歴の振り返りや角度を変えて話をしたりと思いを引き出すよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の際、ご家族やご本人から生活歴、要望をお聞きし、以降も不明な点はご家族に確認し、その方のライフスタイルの継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の方々の生活リズムやパターンをスタッフ一人一人が把握し、普段とは異なる言動から体調の変化等を察知し、早めに対応するように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの要望や意見を基に居室担当者、計画作成担当者、ホーム長が中心となり、ご本人にあった介護計画を作成している。	利用者・家族の要望を聞き、担当職員・計画作成担当者・ホーム長を中心としたチームで介護計画を作成している。また利用者一人ひとりについて、定期的に会議で話し合い、実践状況の確認やモニタリングを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の特記事項や介護計画に沿った記録を個別記録に残し、各スタッフが勤務に入る前に必ず目を通している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いは、基本的にはご家族対応となっているが、ご家族の都合がつかない場合はスタッフが対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回、スタッフと入居者協同で消防訓練を行い、結果を自治会長に報告している。また、近隣の保育園との交流があったり、ご近所の方ボランティアに来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が認知症を理解され、臨機応変に対応下さっている。また、入居前からのかかりつけ医の利用を希望されている方は、ご家族と協力しながら利用を継続されている。	利用者・家族の希望に応じて、かかりつけ医や協力医が選択できる。また、個別状況によっては併用して利用している方もおり、必要な医療の受診支援も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入職し、全入居者の健康状態把握や健康管理、かかりつけ医との連携、通院介助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院中には随時、状態確認を行い、退院後の生活が可能になった段階で、受け入れ体制を整え、早期に退院して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の近い方については、ご家族やかかりつけ医と何度も話し合いを重ね、その都度意向や対応確認しながら取り組んでいる。	法人としての方針を契約時に説明し、理解していただいたうえで入居していただいている。個々の状態に応じ、早い段階から医師・家族と話し合いを重ね、重度化・終末期に対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、マニュアルや入居者それぞれの既往歴や内服薬等が記されたファイルがあり、スムーズに対応できるようになっている。応急手当の研修を今後、行う予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際に入居者と一緒に避難訓練や、消化訓練を行っている。また、自治会に加入し地域の方の協力を得ている。	消防署指導のもと、定期的に避難訓練を実施している。夜間を想定し、居室で休んでいる状態からの避難も実施し、職員の対応力を高めている。今後、利用者全員の避難訓練を予定しており、それにあわせ地域の方の協力要請を考えられている。	災害発生時には、職員での誘導には限界があり、地域住民の協力が得られるよう取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や誘導の際には、無理強いやご本人を傷つけたり、不快に思うような声掛けは避け、周りの状況を見ながら行うようにしている。	一人ひとりに合わせた声かけや、無理強いをしないケアを心がけ、利用者の人格が尊重されている。また、事業所内のことは決して他言しないよう職員に徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自己決定を促しているが、表出が難しいかたには、ご本人に合わせた説明をし、ご自分で決定できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床、消灯等、基本的な時間の目安はあるが、出来る限り入居者の希望に添い、散歩、ドライブ等、行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、出張美容の来訪があり、自己判断の難しい方以外は、入居者の希望に応じて利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が苦手な食べ物をスタッフ全員が把握し、食べやすいように調理したり、代替品を使っている。調理から下膳、片づけまで、入居者一人一人の希望、能力を踏まえ、スタッフと協働している。	買物から、献立・調理・後片付け等、食事の一連の作業に利用者が関わり、食事が楽しめる仕組みがとられている。また、利用者個々の好みにあわせ食材を変更する配慮もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方や、あまり水分を摂らない方がいらっしゃるので、一人一人の摂取状態を把握しながら提供している。太りすぎの方には、食事量を少なめにし、盛り付けの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせて、声掛け、見守り、介助を行っている。義歯使用の方は、週に一度以上、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の多い方には、時間を見計らって、さりげなく声掛けし、トイレ介助している。昼夜で失禁量が異なるため、時間に合わせたパットを使って頂いている。	排泄チェック表を利用し、利用者個々の排泄パターンに合わせることで、オムツ使用を減らすよう努めている。また、本人がトイレへ行きやすいよう誘導方法・声かけが工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、乳製品やファイバー製品を使い、事前排便を目指しているが、それでもうまくコントロールできない場合は、ご本人に合わせた下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべくご本人の希望に合わせて入浴して頂くようにしている。入浴が好きでない方には、無理強いせずに入りたくなるような声掛けの工夫をしている。	利用者一人ひとりの希望の日時になるべく入浴できるよう努められている。拒否がある利用者には無理強いせず、声かけなど工夫し、入浴が楽しみとなるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、夜間ゆっくりと休んで頂くために、日中は、なるべく活動して頂いている。ご本人の状態、希望によっては昼寝など、休息を取って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、用量や効能がわかりやすく表記されており、変更時は即座にファイルを変更し、確実に申し送り、スタッフが把握できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の要望や得意分野を考慮し、食事作り、洗濯物たたみ、庭掃除等もお願いしている。また、毎月、フラワーアレンジ教室があり、希望される方に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	風邪等の感染症流行時以外は、毎日の買い物に入居者とスタッフ出かけ、それ以外にも散歩やドライブに出かけている。	利用者一人ひとりの希望に合わせ、買物・ドライブなど、ほぼ毎日外出されている。また、馴染みの場所や公園などへの個別の外出も希望に沿って計画し実践されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方、お金を所持することで安心される方、習慣となっている方には、ご家族と相談し、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、お貸ししている。また携帯電話を持ち、ご家族と連絡を取り合っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にフラワーアレンジ教室の作品を飾ったり、趣味で貼り絵や折り紙をされる方が食堂や各居室に飾られ、明るい雰囲気になっている。	利用者が活けた季節の花や俳句・折り紙などを飾り、季節を感じる明るい共用空間となっている。廊下やデイルームにソファが置かれ、ゆっくりと過ごせるよう配慮されている。台所前には和室が配置され、家族・友人と過ごす場やくつろぎの場として活用され、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内の随所にソファを設置しており、お気に入りの場所が決まっている方々もおられ、テレビを観たり、会話を楽しんでいる。その他、多目的スペースとして和室がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家具や日用品、衣類等、ご本人が使い慣れた物を持ち込んで頂き、今までの生活を継続出来るように配慮している。	ベッド・家具・飾りなど馴染みのものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせる居室となっている。また、危険が無い限りは、持ち込まれるものの制限はなく、一人ひとりの利用者に合わせた居室作りが行なわれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態や習慣に合わせて、安全に自立して活動、行為が出来るように環境整備している。		

(別紙4(2))

事業所名 ふれあい多居夢大宮

目標達成計画

作成日: 平成 22年 4月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	・火災や地震等の災害が発生した場合、勤務しているスタッフだけでは、入居者の避難誘導等に限界がある。特に夜間においては、事業所全体で2人のスタッフで18名の入居者を避難誘導等するのは、非常に困難であると想像できる。	・方が一の災害時に近隣住民の協力が得られるように、事業所と近隣における良好な関係を構築し、さらに継続していく。	①定期的な自治会の集まりに参加し、事業所の現状等を理解頂く。 ②事業所の防災訓練に近隣の方をお招きし、災害時の対応や現状を共有する。 ③近隣の防災訓練等にスタッフも参加する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。